

千葉市感染症発生動向調査情報

2012年 第13週 (3/26-4/1) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		13週	12週	11週	10週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	17	17	16	17
	眼科	5	5	4	4
	インフルエンザ*	27	27	26	26
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	3/26-4/1	3/19-3/25	3/12-3/18	3/5-3/11	3/19-3/25
			13週	12週	11週	10週	12週
小児科	RSウイルス感染症		1	0	2	0	18
	咽頭結膜熱		0	0	1	0	33
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		27	24	27	27	219
	感染性胃腸炎		140	130	142	165	941
	水痘		6	7	4	6	159
	手足口病		1	1	0	0	11
	伝染性紅斑		1	0	3	0	8
	突発性発しん		8	9	6	6	55
	百日咳		1	0	0	0	5
	ヘルパンギーナ		2	0	0	0	2
	流行性耳下腺炎		3	3	5	6	36
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザ*を除く)	↓↓	233	339	452	573	2,896
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
	流行性角結膜炎		0	0	3	1	5
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎	○	2	2	1	0	8
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	○	3	0	0	4	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	QFT	結核	女性	30歳代	QFT
結核	男性	50歳代	病原体の検出	結核	女性	30歳代	QFT等
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	結核	女性	40歳代	病原体の検出
結核	男性	60歳代	病原体の検出	結核	女性	50歳代	病原体等の検出等
結核	男性	70歳代	病原体の検出等	デング熱	女性	30歳代	血清IgM抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体の検出	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状

・結核10件(97)、デング熱1件(2)、急性脳炎1件(9)の報告があった。

()内は2012年累積件数

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第13週のコメント

<インフルエンザ> 前週より更に減少し8.63となり、流行警報継続基準値(10.0/定点)を下回った。過去10年間の同時期と比較するとやや多め。

<マイコプラズマ肺炎> 前週から横ばいで2.00となった。過去10年間の同時期と比較すると最多。

<クラミジア肺炎> 前週から増加し3.00となった。過去10年間の同時期と比較すると最多。

トピック

<マイコプラズマ肺炎>

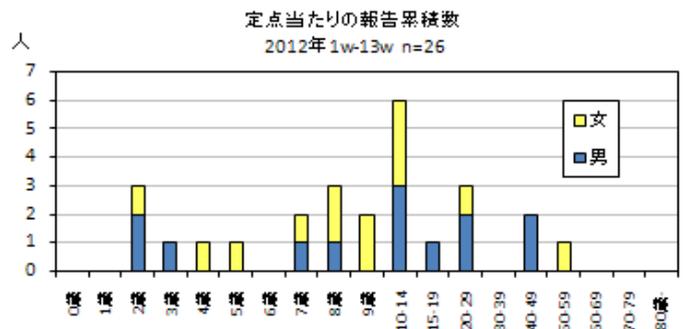
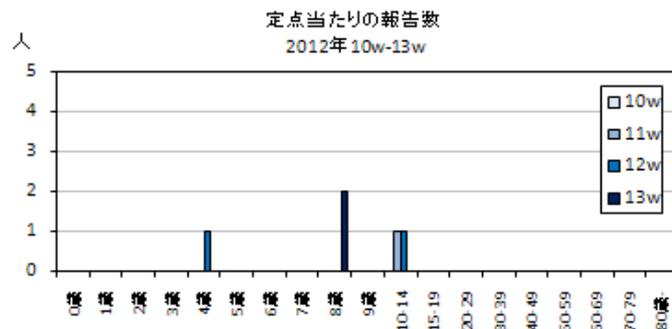
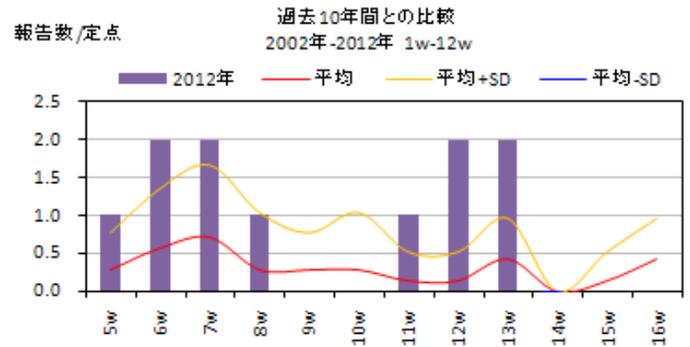
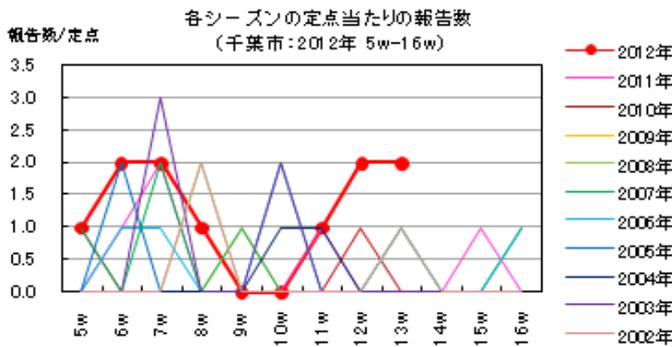
2012年の全国レベルは、前年から引き続き過去5年間と比べて最多の状態が続いており、第12週も過去5年間の平均+SDを超え、依然として流行している状況にあります。都道府県別では、沖縄県、宮城県、埼玉県の順に発生が多くなっています。千葉県は、全国レベルと比べると少ない状況となっています。千葉市では、第13週は前週から横ばいで2.00となっていますが、過去5年間の同時期と比べて最多となっています。1年代当たりの発生数でみると2歳と8歳での発生が多く、又男女比では同数となっています。

本疾病は、肺炎マイコプラズマ(*Mycoplasma pneumoniae*)による肺炎です。

我が国での感染症発生動向調査によると、晩秋から早春にかけて報告数が多くなり、罹患年齢は幼児期、学童期、青年期が中心で、病原体分離例でみると7~8歳にピークがあります。

感染は、飛沫感染と接触感染によりますが、濃厚な接触が必要と考えられており、地域での感染拡大の速度は遅いです。潜伏期は通常2~3週間で、初発症状は発熱、全身倦怠、頭痛などです。咳は初発症状出現後3~5日から始まることが多く、最初は乾性の咳ですが、咳は徐々に強くなり、解熱後も長く続きます(3~4週間)。特に幼児や青年では、後期には湿性の咳となることが多いです。鼻炎症状は典型的ではありませんが、幼児でより頻繁に見られます。嘔声(しわがれ声、声がれ)、耳痛、咽頭痛、消化器症状、胸痛が約25%、皮疹が6~17%で見られます。喘息様気管支炎を呈することは比較的多く、急性期には40%で喘鳴が認められます。合併症としては、中耳炎、無菌性髄膜炎、脳炎、肝炎、睪炎、溶血性貧血、心筋炎、関節炎、ギラン・バレー症候群、スティーブンス・ジョンソン症候群など多彩なものが含まれます。

特異的な予防方法はなく、流行期には手洗い、うがいなどの一般的な予防方法の励行と、患者との濃厚な接触を避けることです。



<結核>

2012年の全国レベルの第12週現在の届出累積数は、過去5年間の同時期と比べて最多となっています。関東地方が多く、東京都、神奈川県、千葉県の順で多くなっています。千葉市の届出累積数も、第13週現在は過去5年間の同時期と比べて最多となっています。

結核は、現在においても国内で最大の感染症です。肺結核で一番多い症状は、咳・たん・発熱・倦怠感・体重減少などです。特に、咳が2週間以上も続く場合には、必ず医療機関で診察を受けましょう。

